

## 5. 山頂での行動ルール一般

### 5.1 名札着用

- 所属・名前を書いた名札を着用すること。山頂での生活については、山頂班長の指示に従うこと。

### 5.2 立入禁止の場所

- 測候所内の生活空間は、仮設庁舎、4号庁舎、1号庁舎、2号庁舎、3号庁舎の指定されたところとする。指定外の場所は気象庁の許可を得ない限り立入禁止とする。
- 4号庁舎は高圧電源設備が設置されており、仮設庁舎に行く時には注意が必要。また、雷雲が近くにあるときには、配電盤には近寄らないように注意する。

### 5.3 単独行動禁止

- 山頂では単独行動は庁舎内を除き原則禁止する。屋外に出る際にはリーダーへ報告する。リーダーは適宜山頂班に報告する。

### 5.4 ゴミは持ち帰り

- 環境保全のため、ゴミ、廃棄物はすべて回収して持ち帰ること。山頂での焼却は禁止。
- 富士山は国立公園特別保護地域であることから、土石の採取、土地形状の変更は法律で禁じられているので、当該行為は行わないこと。

### 5.5 食事

- 各グループの飲料水・食事・非常食用料は各自準備すること。
- 各グループの調理にかかる調理器具は各自持参すること。ただし、火気厳禁のため、火を使う調理器具は使用禁止である。
- 山頂で利用出来る調理器具は次のとおりである。  
冷蔵庫、電子レンジ、IH 対応薬缶・鍋、IH 調理器、保温ポット
- 食器（カップ、ボウル、フォーク、スプーン類）は各自持参すること。
- 食事時間は朝食 7:00、昼食 12:30、夕食 18:30 を目安として設定する。
- 原則として山頂では禁酒、指定の場所以外は禁煙とする。

### 5.6 トイレ

- トイレトーパーは流さずに設置してあるゴミ入れに入れる。詳細については現地で山頂班から説明を受ける。

## 6. 山頂での屋外作業

### 6.1 ヘルメットの着用

作業時には必ずヘルメット・腕章を着用。高所作業時には安全帯も。

### 6.2 登山者への配慮

- 屋外作業にあたっては、他の登山者の安全に十分な配慮を行うこと。

### 6.3 天候と作業

- 山頂での屋外作業の可否は山頂班長の指示に従う。
- 悪天時の屋外での作業は原則として禁止する。

### 6.4 屋外への工作物の設置

- 屋外への構造物の設置は、事前に環境省等に提出した「現状変更申請書」にもとづき実施すること。

### 6.5 屋外での作業時間

- 玄関の開閉があるため原則 7時から 19 時までの時間帯とする。

## 7. 山頂での屋内作業

- 使用する場所は、あらかじめ定められた範囲内に、ラックなどを使い整理して置き、他グループの領域に侵入しないこと（ラックは各自が用意し持参すること）。
- ごん包資材は、下山時に再び使用することになるので山頂班から指示された場所に、まとめて置く。

## 8. 荷下げ/下山

### 8.1 荷下げ

- プルによる荷下げ時は、荷上げ時と同様、梱包とラベル貼付による所属・所有者氏名を大きく、わかるように表示する。
- ゴミはラベルの表示をし、各所属機関へ持ち帰る。
- 太郎坊にて荷物重量を計測し、「荷物量記入票」を(有)イグラに提出する。

### 8.2 徒歩での下山開始

- 下山開始時刻は原則 14:00 をリミットとする。
- 単独の徒歩下山は禁止であるので、必ず同行者と一緒に行動する。
- 下山時に山頂で落雷情報を確認して安全であるかどうかを判断する。
- 下山途中で落雷の危険がある時は、雷の危険が去ってから下山する。
- 下山開始時は山頂班長にその旨を報告する。

### 8.3 下山終了

- 下山後、下山終了報告を御殿場基地班に電話する。  
(\*) 連絡・報告がない場合は遭難と判断し、捜索態勢を取る。
- NPO からの貸与物品（ヘルメット、パルスオキシメータ等）がある場合は、御殿場基地にて受け渡しを行う。
- 下山後の交通手段は各研究・活動グループの責任において準備する。

## 9. サポート体制

### 9.1 山頂運営管理委員会

- NPO 法人運営委員会規程にもとづき設置されている委員会のひとつであり山頂運営管理にかかわる事項全般を所掌する。

### 9.2 山頂班 080-5437-3776

- 富士山測候所に観測期間中常駐し、設備管理、生活環境管理、来訪者対応などを所掌し山頂での研究者等の研究観測活動をサポートする。
- 山頂での行動は山頂班の指示に従う。

### 9.3 御殿場基地班 0550-98-8327

- 麓（御殿場市）での研究者等の登山下山をサポートする。
- 御殿場市内にアパートを賃貸し、登山、下山の基地として利用できる。また、パルスオキシメータを置き希望者には貸し出しをしている。いずれも、利用する場合は事前に事務局に申し込みをすること。

### 9.4 事務局 03-3265-8287

- 東京事務所において計画、渉外、総合調整を所掌し、登山計画書の受け付け・スケジュール調整・プル手配等を行う。

# 安全マニュアル 2011

夏期観測で富士山測候所を利用するときの行動指針

v2.1



## 富士山行動指針 10 か条

### 1.常に安全第一

登山及び山頂での活動では安全第一を心がける。

### 2.準備周到

事前の準備を十分に行い、持参する装備をよく確認する。

### 3.リーダーの下に行動

グループリーダーを決めてその指示の下に行動する。グループ内で複数のチームにわかれて行動する際は、それぞれにチームリーダーを決める。

### 4.連絡の徹底

グループリーダー/チームリーダーは御殿場基地班/山頂班との連絡を徹底する。

- 計画段階（登山計画書の提出） → 事務局
- 登山開始時、下山完了時 → 御殿場基地班
- 測候所到着時、下山開始時 → 山頂班

### 5.山頂班班長の指示遵守

山頂で屋外作業をする時には、前もって山頂班と安全作業の進め方について確認を行う。

### 6.単独行動の禁止

原則として、山頂での屋外作業及び登山時には単独行動は禁止。また、登山において学生のみ行動も禁止。

### 7.気象の変化に注意

気象の変化には十分に気をつける。特に雷対策には念を入れて対処する。

### 8.体調管理の徹底

山頂での作業、登山時は体調変化に十分に気をつける。

### 9.ゴミの持ち帰り徹底

山頂に運んだ荷物は許可を得たもの以外残置しない。特にゴミは必ず持ち帰る。

### 10.緊急時の一致協力

緊急時には関係者が一致協力をして安全確保に努める。



特定非営利活動法人

富士山測候所を活用する会

Valid Utilization of Mt.Fuji Weather Station

## 1. 登山計画

### 1.1 登山計画書の提出

- グループリーダーは「登山計画書」に必要事項を記入し、登山日の1週間前までに事務局にメールに添付し提出すること。
- 記載内容に、記入漏れ、記入誤り、測候所の宿泊、ブルの運行スケジュールなどに問題がある場合は、提出者に対して電話/メールにて再検討をしてもらうことがある。

### 1.2 登山同行者の原則

- 徒歩による単独登山は原則禁止。必ず複数名、登山経験者と同行して登山すること。
- 複数名であっても学生のみでの登山は原則禁止。
- 同行者がいない場合は、事務局に事前に同行者となる人がいないかどうか相談すること。

### 1.3 傷害保険の加入

- 登山での万が一のときに備え、旅行傷害保険に加入することが望ましい。



## 2. 荷上げ・ブル

### 2.1 荷物の事前発送

- 山頂に荷上げる器材等を発送する場合は、クロネコヤマト集配担当営業所（御殿場板妻センター）に営業所止めで所定の期日までに到着するように送ることとし、太郎坊までの運搬は発送者の責任において行うこと。
- クロネコヤマト集配担当営業所ではクロネコヤマト以外の運送業者からの荷物は取り扱わないので注意すること。

クロネコヤマト 御殿場板妻センター
センターコード：051151
住所：〒412-0048 御殿場市板妻 37-59
問い合わせ： 054-903-5555

### 2.2 重量荷物の前日搭載

数十キロを超える荷物（登頂日朝に簡単に積めない場合）の場合、御殿場基地班に連絡の上、前日の12:00～14:00までにブルへの荷物の積み込みを済ませること。

### 2.3 荷物の梱包方法

- ブルに搭載する荷物は、「登山計画書」にその中身、重量などを記入し、事前にNPO事務局にメール添付により提出すること。
- 梱包は防水対策及び砂塵対策を考慮に入れ、ブルの振動に耐えられるようエアキャップやコンテナで厳重かつゴミにならないように。
- 荷姿はブルから滑り落ちないように安定した形状にする。
- 荷物には大きな文字で三方向に以下の項目について明記すること。

「研究グループ名（運搬料の請求先）」
「所属、氏名」
「内容物概要」「重量(kg)」
「ブル搭載日付」「上荷/下荷区分」

### 2.4 ブル積み込み作業

- 朝6:00までに太郎坊ブル基地に集合する。
- 荷上げ当日は、御殿場基地班主導で計量し、「荷物量記入票(カーボンコピーの2片製)」に荷物の中身、重量、同乗する荷物管理者名を記入し、本片を筒イグラに提出、コピーを控えとして残す。
- ブルへの積み込みは筒イグラの指示された場所に迅速に運びこむ。
- ブルへの荷積み作業時には所属・名前を書いた名札を着用する。
- 作業用に手袋・雨具などの服装・装備を準備すること。
- 整理整頓を心がけ、すべてのゴミは持ち帰ること。

### 2.5 ブルに乗車するときの注意事項

- ヘルメットを着用し砂埃対策としてマスクやタオルを準備する。
- 途中での天候の急変や気温低下に備え、防寒具、雨合羽、手袋、帽子などを装備しておく。
- トイレは事前に済ませておくこと。
- 乗車中は危険なので席の移動をしたり身を乗り出したりしない。
- 乗車中の写真撮影は禁止。
- 乗車中は座席での居眠りは禁止。
- 乗車/下車はブルのオペレータの指示に従う。
- 山頂測候所前に着いたら、ブルオペレータと山頂班の指示に従い、手際よく協力しあい荷物を序舎内へ搬入する。山頂からの下げ荷と混ざらないように注意すること。
- 作業中は一般登山者を優先させ、登山者の安全を確保すること。

## 3. 登山

### 3.1 登山の服装/装備

- 徒歩・ブルに関わらず安全のためにヘルメットを着用すること。
- 非常食、水、ヘッドライトは必ず携帯すること。
- 山頂の気温は、太郎坊とでは15～20℃ほど気温差（気温減率：約0.65℃/100m）があることを考慮した服装・装備をする。

### 3.2 悪天候時の登山の判断

- 悪天候時の徒歩登山を実施するか否かはリーダーが判断する。
- (\* ) 山頂班、御殿場基地班に専門家としての助言を仰ぐのはかまわないが、責任は最終的にはリーダーが負う。

### 3.3 登山時の連絡

- 夏山では午後には天気が崩れることが多いので早朝(原則6:00頃までには)登山を開始することとし、登山開始時は御殿場基地班に連絡を入れる。
- 悪天候の場合は、登下山途中で経過報告及び行動の見込みを御殿場基地班に入れる。
- 以下に記す山小屋に14:00までに(須走口のみ14:30までに)通過できなかった場合には山頂への到着が深夜になると予想されるので、事故防止のため其処の小屋に泊まるか、一度下山し翌日改めて山頂を目指すかを検討する。

富士山八合目池田館	富士宮八合目	0544-22-2235
赤岩八号館	御殿場口八合目	0550-84-5061
白雲荘	吉田口八合目	0555-24-6514
八合目江戸屋	須走口八合目	0550-84-3518

## 4. 体調管理・緊急対応

### 4.1 登山前日

- 登山前日はアルコール、喫煙を避けて睡眠を充分にとるなど、体調管理をしっかりとごこなう。
- 治療中の病気（高血圧、糖尿病など）がある場合は、事前にかかりつけ医に相談する。
- (\* ) アセタゾミドの服用を考えて居られる方は特に注意が必要。

### 4.2 登山中の体調管理と緊急対応

#### (1) 高山病対策

- 息が上がらない程度にゆっくり登る。
- 登山中は休憩（1時間に1回程度）をとって、水分、糖分、炭水化物を補給する。
- 登山中に体調が悪くなった場合、しばらく休んで様子を見る。

#### (2) 熱中症対策

- 服装は、通気性や吸湿性のよいものを選び、行動中はこまめに体温調節する。
- 帽子などで、直射日光を避ける。

#### (3) 緊急対応

- 更に緊急を要する状況であれば、山頂班あるいは御殿場基地班に連絡して対応を相談する。山小屋、救護所（富士吉田口8合目・富士宮口8合目）があれば、必要に応じて協力を求める。

### 4.3 山頂での体調管理と緊急対応

#### (1) 気分がすぐれないとき

- 初日の作業は無理せずゆっくり動くこと。気分の悪い場合は呼吸を深くし、水分をたくさん取って休むこと。ただし、完全に横になって寝ることは勧めない。軽度の運動が効果をもつこともある。身体を暖かく保つこと。
- 体調が悪い場合、絶対無理をせず、リーダーに報告して指示を仰ぐ。
- 軽度の症状の場合は、無理のない範囲で身体を動かした方が良い。
- 楽な姿勢をとり、なるべく腹式呼吸をする。
- バルサオキシメーターで動脈血酸素飽和度と心拍数を測定し、体調管理表（別表）を記入する。測定にあたっては、測定上の注意事項をよく読むこと。
- 下山可能な場合はなるべく高度を下げるのが望ましい。

#### (2) 酸素吸入・薬の服用が必要なとき

- 酸素吸入は、山頂班の状況判断により適宜行って良い。判断に困る場合は、NPO所属の医師に相談する。
- 薬はNPO所属の医師の指示を受け服用すること。
- 山頂での急病、事故などの緊急時には、(周りに居合わせた人が)安全確保とできる可能な応急処置を行う。
- (\* ) 測候所に研究者として医師が滞在している場合には、適宜その者の判断を仰いで、適切に対応する。

